

令和6年度信州つばさプロジェクト JENESYS 韓国コース（11月3日～9日）に参加した、2年国際教養科の石井 久怜愛さんの帰国レポートを紹介します。

2年7組 石井 久怜愛

私は信州つばさプロジェクトで、韓国に行ってきました！近年、日本では韓国文化が流行し、食べ物やドラマ、ハングルなどが身近に存在するようになりました。だから私は韓国に強い興味を持つようになり、韓国に行きたいと思うようになりました。

初めて会う長野県の高中生たちとの一週間の旅、初めての海外で”初めて”がたくさん詰まった経験になりました。歴史的な建物である景福宮や歴史博物館へ行ったり、K-POP センターでダンスを教わったり、現地の学生たちと交流したりしました。そこで学んだことがたくさんあります。

日韓関係についての講演会の際、お互いの国の好感度が毎年高まっているということを知りました。私は日本側だけ



が韓国を好きなだけではないとい



うことが嬉しかったです。日本語科で日本語を学ぶ現地の高校生や大学生との交流では、会話の中の、日本のアニメやお菓子などの話から日本への愛を感じました。コンビニの商品や街の看板など至るところで日本語を見かけました。日本の居酒屋やJ-POP、ドラマや映画が流行っているそうです。憧れの韓国がこんなにも日本で溢れているというのが不思議でした。日本に対して良いイメージを持っていない人もいるかと不安に思っていたけれど、コンビニやお店の店員さんや明洞の屋台の方、交流した学生のみなさんも優しく迎え入れてくれました。お互いの文化をお互い認め合っていると感じ、嬉しかったです。

歴史博物館では日本が昔、韓国にどんなことをしてきたのか、展示から見て学びました。展示の中で日本人が支配している感じで韓国人が血を流しているのを見て悲しい気持ちになりました。二度とあってはいけないことだと思います。この博物館での展示から反日の人たちの気持ちがわかりました。



景福宮は、ハングルを作った王様、セジョン大王が暮らしていたところなのだそうです。日本のお城に似



た形をしていて、日本に似ている風景に親近感が湧きました。似ているのに描かれている模様が華やかで洋風な建物でした。ハングルの構造が人間の発音の口のかたちからできており科学的であるということも学びました。

文化体験として、韓国の伝統衣装であるチマチョゴリを着ました。上は着物のようなのに下はドレスのような形でした。実際に着たことで韓国人になれたような気持ちになりました。

応募して行くことができたこと、奇跡だと思っています。改めて、韓国と日本は位置的にも近くて人も建物も似ているのに、食べるものもマナーも考え方も全く違うという異文化の面白さに気付かされました。異文化にふれ、視野が広がったと思っています。また、韓国研修中には勇気を持って行動できた場面がたくさんありました。それらをこれからの将来に活かしていきたいです。さらに、日韓関係をより良くしていく架け橋になれるよう、この経験をたくさんの人たちに伝えていきたいです。

